

撃ちてし止まむ！

私の心と身体に住みついた天皇と天皇制を

「金権違憲腐敗嘘つき無策政治家」より「民主的で平和主義者の良い天皇」が好き！！

というきわめて今日的なテーマに沿って考えなおす

【wamからの触れ口上】

さあ、さ、お立ちあい！

このチラシをご覧になって
wamは軍国主義になっちゃたの？と思った
そこのあなた！あなたにこそ、
この議論にご参加いただきたい！

「私たち」がほっかむりしてきた現実と
その歴史を両の眼でしかとみつめてこそ、
「天皇制を考える」は始まるのであります。

長丁場、心してご参集ください。

日時：2022年11月3日(木・休) 14:00～

お話し：池田 浩士さん

会場：wam オープンスペース

定員：25名(予約制・先着順)

参加費：1000円

*オンラインは後日オンデマンド配信のみになります。

*新型コロナウイルスの感染状況によって、
セミナー開催方法に変更の可能性があります。

申し込みは右記QRコードからGoogleフォームで、wam事務局にメールを
くださればURLをお送りします。会場参加のみ電話での申し込みも可能です。



【話し手の前口上】

天皇制は英語では the Tenno system とか Tennoism とか言うのだそうです。ところが、1934年から36年にかけて全26巻で刊行された当時最大の日本語辞典、平凡社『大辞典』には、「天皇制」という日本語はどこにも載っていません。また、この語は共産主義運動の国際組織「共産主義インターナショナル」(コミンテルン)の造語で、共産主義の用語だった——という説もあるようですが、じつは、コミンテルンの文書では、日本に関しては「君主制 Monarchie」という語が用いられていたのです。それを日本の非合法共産党の誰かが「天皇制」という語に置き換えて、1931年春から地下出版の党機関紙『赤旗』に「天皇制」が顔を出すようになりました。もちろん、「臣民」はそんな言葉を夢にも知りませんでした。そして、1945年、大東亜戦争の敗戦で天皇タブーのタガが外れた瞬間に、「天皇制」が一気に日本社会に氾濫したのです。「象徴天皇制」という語も、そのとき突如として生まれました。私がいま向き合おうとしている天皇制、私自身が本当に生きるために、時と場を共にする「私たち」と一緒にあらためて見つめなおそうとしている天皇制は、高々それだけの歴史しか持っていません。

その短い歴史の中で、天皇制というものを最もよく表現している言葉は何か？——と問われれば、それは「撃ちてし止まむ！」だ、というのが私の思いです。戦時中の愛国スローガンとしてご存知のかたもおられるかもしれませんが、戦後の「象徴天皇制」についても、いま私たちがその中で日々を生活している現代天皇制についても、この古い言葉は、私たちに多くのことを語り、さらに多くのことを考えさせてくれるでしょう。

「国民」が選んだ政治家よりも天皇のほうが民主主義を大切にしている、という今日の社会感情……

「民主主義者」の天皇や皇族に希望を託すさまざまな思いと、ときには「直訴」……

私たち自身の中に生きている天皇制との近しさを、この古い歌＝スローガンの言葉と精神と感性をとおして共に見つめなおしてみたいと思います。

ゲスト：いけだ・ひろし 1940年大津市生まれ。1968年から2004年まで京都大学、2004年から2013年まで京都精華大学で教える。専攻は現代文明論、ファシズム文化研究。著書に、『文化の顔をした天皇制』(社会評論社、1986年/増補版=2004年)、『死刑の(昭和)史』(インパクト出版会、1992年)、『ヴァイマル憲法とヒトラー——戦後民主主義からファシズムへ』(岩波書店、2015年)、『火野葦平論——(海外進出文学)論・第1部』(インパクト出版会、2000年)、『子どもたちと話す 天皇ってなに?』(現代企画室、2010年)、『ボランティアとファシズム：自発性と社会貢献の近現代史』(2019年、人文書院)ほか多数。



wam セミナー 天皇制を考える

wam は、「女性国際戦犯法廷」(2000年、東京)から20年の節目にあたって、
2020年9月から天皇制由来の「祝日」のうち4日間を「祝わない」ために開館することにしました。
天皇の戦争責任・植民地支配責任を問い、天皇制を維持してきた責任を見つめなおすために、
タブーなく天皇制について議論できる「場」をつくっていきます。

■これまでのセミナー

第1回 2020年11月3日

テーマ：叙勲・お言葉・思いやり…天皇と「国民」を結ぶもの—「明治節」に考える—
お話し：池田浩士さん(京都大学元教員)

第2回 2021年2月11日

テーマ：桜の国の悲しみ、菊の国への抗い—「紀元節」に伝えておきたいこと
お話し：石川逸子さん(詩人)

第3回 2021年2月23日

テーマ：「歌会始」が強化する天皇制—序列化される文芸・文化
お話し：内野光子さん(歌人)

第4回 2021年4月29日

テーマ：「昭和の日」に記憶する天皇の戦争責任～近年の研究成果から学ぶ
お話し：山田朗さん(明治大学平和教育登戸研究所資料館館長)

第5回 2021年11月3日

テーマ：近代天皇と家族の表象
お話し：北原恵さん(大阪大学元教員)

第6回 2022年2月11日

テーマ：近代天皇制がつくってきた差別—水平社宣言から100年を機に考える
お話し：黒川みどりさん(静岡大学教員)

第7回 2022年4月29日

テーマ：天皇と戸籍
お話し：遠藤正敬さん(非常勤講師、早稲田大学台湾研究所非常勤次席研究員)

会員になりませんか？

●友の会年会費：3,000円 ●維持会員年会費：10,000円

会員にはニュースレター(年3回)のほかイベント案内などを逐次お知らせします。
維持会員は入館料無料。各種セミナーや刊行物の割引もあります。

郵便振替口座番号：00110-2-579814

口座名称：「私たちの戦争と平和人権基金」係

wam
アクティブ・ミュージアム

私たちの戦争と平和資料館
women's active museum on war and peace

東京都新宿区西早稲田2-3-18 AVACOビル2F 〒169-0051
T:03-3202-4633 F:03-3202-4634 E:wam@wam-peace.org
URL:https://wam-peace.org Twitter:@wam_peace

開館時間：金・土・日・月 13:00~18:00

2月11日、2月23日、4月29日、11月3日は
「祝わない」ため開館

休館日：火・水・木・祝日(天皇制由来の上記4日を除く)

※時間外の団体来館はご相談ください。
※展示入れ替え期間と年末年始は休館となります。

入館料：18歳以上 500円
18歳未満 300円
小学生以下 無料

※障害のある方の付き添いは無料です。

